
もちろん笑みは忘れずに

.png

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もちろん笑みは忘れずに

【Nコード】

N3178K

【作者名】

・png

【あらすじ】

このはなしは『やっぱり笑みは隠せない』（n6361i）と関係があったりします。やっぱり何が書きたかったんだろうか。

商売で必要なもの、それは沢山あると思う。

単純に金、人間関係、会話術、対人術。他にも沢山あるだろう。しかしもっと大切なものがある。それは――笑みだ。

笑みを浮かべているだけで人の印象はかなり変わる。第一印象がいだけで、いい人だ。という感覚が生まれるからである。そのため俺も一商人として笑みだけは絶やさないようにしておく。それが大事だからだ。

「いらっしゃいませー」

この言葉を言うときに笑みを添える。それだけで相手の気持ちを引き込むことが出来る。

「ありがとうございますー」

この言葉に笑みを添えておく。それだけで相手にいい印象を与える。

「はいどうぞ」

この子供向けの言葉には甘い笑みを添えると子供は好印象を受けるようだ。

――つまり、笑みはそれだけで商売の武器になる。最強の武器だ。

「いらしゃいませー」

屋台は道楽。俺は普段、喫茶店のマスターをしている。

「今日は何にしましょうか」

この女性に、この言葉は必要ない。何故なら――

「いつもので」

――こういう答え。リピーター常連客にしか出来ないような答えを返してくるからだ。

「はい、分かりました」

商売上、記憶力も武器になる。このようなときに迅速に対応可能だからだ。

それだけでかなりの好印象を与えることが出来る。それに、笑みはちゃんと顔に貼り付けて。

「はい、いつものエスプレッソです」

いつもどおりの時刻に来る、いつもどおりの客。その客のいつものメニューぐらいは簡単に覚えておける。そして、柔らかな笑みを添えるのは忘れずに。

「ふむ、ありがとう」

毎度思うが、きつい口調の女性だ。別に特段ひねくれた難癖つけるような客じゃないから問題は無いけど。

「すいませーん」

すぐに別の客に呼ばれる。少し忙しいからバイトでも雇おうかと思う。

そんなことを考えながらも客のところへと向かう。

「はい、ご注文は？」

「いつものモーニングを」

「はい、分かりました」

いつものモーニング、つまりこの人の場合は甘めのコーヒーでいいのだろう。確か苦いものが苦手だったはずだ。

「はい、モーニングです」

いつものモーニングを客の元へと運ぶ。

——もちろん笑みは忘れずに。

(後書き)

くだらねええええ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3178k/>

もちろん笑みは忘れずに

2011年1月26日12時16分発行